# 特別支援教育実践マニュアル

＜No.15＞

## はじめが肝心

### ～新年度に良いスタートを切るために～

多くの子どもたちは、新しい友だちや担任との出会いに緊張感を持って新年度を迎えることでしょう。しかし、学習につまずいている子どもや人間関係を作るのが苦手な子どもは、自信を持てないまま、あるいは不安な気持ちを抱えたまま新年度を迎えるかも知れません。

クラスづくりにおいては４月のスタートが肝心であるように、支援を要する子どもへの対応も「はじめが肝心」です。

今号では、特に年度初めの取り組みに焦点を絞り、子どもが「学校が楽しくなりそうだ」「大丈夫だ」と思えるような（保護者からは「これなら安心」と思われるような）、担任としての具体的な動きを挙げます。

**4月**　　**5月**

**＜引き継ぎ＞** → **＜実態把握＞** → **＜支援の検討＞**

| ＜引き継ぎ＞ | ＜実態把握＞ | ＜支援の検討＞ |
|---|---|---|
| 新入生の情報を引き継ぐ | 保護者との面談を設定する | 個別の指導計画を作成する |
| 在校児童生徒の情報を引き継ぐ | 子どもの全体像を把握する | 校内委員会等を開催する |

**保護者と連絡を取りながら進める**

# 引き継ぎ ― 特別支援教育コーディネーターと一緒に ―

## ＜ 新入生 ＞

### 年度初めに確認する情報

① 保育園・幼稚園・小学校からの引き継ぎ情報
② 関係機関からの情報
③ 保護者からの就学相談の内容

### 確認する内容

**＜本人を困らせないために＞**
① 本人が困りやすい活動場面および状況
② 本人が困っているときに出すサイン
③ パニックを起こさないような配慮および起きたときの対処方法

**＜本人の良さを伸ばすために＞**
① 本人の長所および頑張っているところ
② 本人の良さが出やすい条件
（例）「△△の支援をすれば、□□ができる」といった子どもの力が発揮されやすい条件　など

**＜保護者と連携するために＞**
① 保護者との連絡方法
② 保護者との連絡頻度

「サポートファイルうらやす」を利用している保護者もいます。積極的に活用しましょう。

早い時期に面談を設定し、協力関係を作りましょう。

## ＜ 在校児童生徒 ＞

### 年度初めに確認する情報

① 「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」の有無とその内容
② 前年度までの保護者との連携の実際

### 確認する内容

① 新入生の「確認する内容」に関すること
② 前年度で成長したこと
③ 効果のあった支援方法

小さな支援の積み重ねを確実に受け継ぎましょう。
（例）「机間支援により集中力が増した」など

# 実態把握 ― 引き継ぎ情報を踏まえて ―

## 保護者面談の要点

**＜保護者の思いを受け止めるために＞**

① 保護者の視点に立ち、直面する悩みを傾聴する
② 保護者のこれまでの頑張りを傾聴する
③ 保護者の願いを傾聴する

**＜子どもの状態像を保護者と共有するために＞**

① 子どもなりに頑張っているところを伝える
② 不適応行動は隠さず端的に伝える
③ 学校での対応方法を上記②とセットで伝える
④ 保護者の意見を参考に学校での関わり方を考えていきたい旨を伝える

「考え過ぎですよ」
「様子をみましょう」
「どうして欲しいのですか」
これらは、保護者が安心感を持てない言葉です。

子どもの良いところを育てる担任の姿勢が伝わります。

継続的かつ前向きな連絡こそが、保護者の安心感につながります。

⇒実践マニュアル No.4 参照

支援を要する側面をさまざまな角度から観察しましょう。

（例）字を書くことが苦手だという場合でも、さまざまな要因が考えられます。

① 読めない
② 意味を理解していない
③ 形の認知が難しい
④ 形の想起が難しい
⑤ 記憶が定着し難い
⑥ 不器用
⑦ 姿勢が崩れる
⑧ 気分のムラが激しい　など

⇒実践マニュアル
No.3・5・6・7・8・11 参照

## 子どもの全体像を把握する際の要点

① 学習面
（内容理解・指示理解・学習意欲　など）

② 社会性
（集団参加・対人関係・興味関心　など）

③ 運動・感覚
（姿勢の崩れ・不器用さ・過敏性　など）

④ 言語面
（発音・吃音・聞こえ　など）

⑤ 心理行動面
（多動・不注意・こだわり・劣等感　など）

⑥ 医療情報
（診断名・病歴・服薬　など）

⑦ その他の要因
（家庭環境・体調による影響　など）

# 支援の検討 ― 実態把握をした上で ―

## 「個別の指導計画」作成の要点

① 「目標」は肯定的に
② 「手立て」は具体的に
③ 「手立て」は「目標」と対応させて
④ 「見直し予定日」を必ず入れる

「個別の教育支援計画」の作成も検討し、保護者と共に長期的な展望に立って考えましょう。

⇒実践マニュアル No.9・13 参照

集団から受ける影響を考慮し、全体指導で取り組みたいことも早い時期から明確にしていきましょう。
（例）「"友だちの意見を否定しない"といったクラスのルール作り」など）

⇒実践マニュアル No.14 参照

## 校内委員会等を開催する際の要点

① うまくいっている事例を参考に、目標や手立てに検討を加える
② 「個別の指導計画」など、既に作成してある資料を活用する

教職員間で「こんな姿を見かけたら褒める」など共通認識を持ち、声をかける場面を増やしましょう。
多くの教職員が接することで、担任には見せない姿を見ることができ、子どもの理解が深まります。

既存の資料に検討事項を追加するなどして、効率的に進めましょう。

日ごろから、教職員間で子どもの情報を共有しておくことが大切です。

＊ 今号で示した新年度のスタートの仕方は、あくまで一般的なものです。学校の現状に合わせて参考にしてください。

まなびサポート事業
教育研究センター〈美浜北小学校内〉 381－7960・7961
まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉 390－5204